



ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

今号からの新企画。
アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館副館長)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

シリパイカラ (春がきた)



待ちに待った春!各地でいろんなイベントが目白押しだよ。

私が一番楽しみにしているのは阿寒湖アイヌシアター「イコロ(宝物)」のオープン。イコロでは、これまでのアイヌ伝統舞踊に加え、新たに人形劇が始まるの。

金成マツさんという、有名な伝承者のおはあさんが書き残した今回の物語は、森で一番位が高いカムイ(神)、クマ神が主人公。でも、偉いはずなのになんだか間が抜けてるし、奥さんには頭が上がりません。火の神はお歳は召せども超美人で賞禄があり、キツネやカラスの神さまも拔群のキャラ。アイヌの神々は、みんな人間臭くて魅力的。
おまけにこのお話は、ストーリーのおもしろ



さに加え、アイヌ文化の核とさえ言われる「クマ送り儀礼」をクマ神の視点から描いている点が大きなポイント。正直、初めてアイヌの世界観に触れた方には、ちよつとわからないところがあるかもしれないけど、「なにこれ?」という不思議さが、異文化と向き合うための初めの一歩だと私は思っています。

人形も本格的。阿寒湖のアイヌの人たちが、今回初めてプロの人形作家の指導を受けて作ったんだけど、もともと木彫りの伝統が息づいている土地柄だから、あつという間にマスターしちゃったんだって。きっと、アイヌ文化の「新たな伝統」になっていくでしょうね。



この春のイチ押しは、アイヌ民族博物館の「春のコタンノミ(村の祈り)」かな。

コタンノミは年中行事のひとつ。サクバ(夏の年)とマタバ(冬の年)を一回ずつもかえて一年と考えられていたの、その年の始まる春と秋に、自然の恵みが豊かであ



アイヌ民族博物館コタンノミでの祭壇における神への祈り

るように!皆が健康で何事もなく過ごせるように!と祈願し、感謝をする伝統儀礼です。会場となるのは茅葺きの家の中でも一番大きいポロチセ。家の中央にある大きな二つの囲炉裏をはさんで、伝統衣服に身をつつんだ男たちが二列に対座する様子は、初めてアイヌ儀礼に参加する人たちには庄巻だと思えうよ。

中央には幾何学文様が編み込まれたチタラベ(莫座)が敷かれ、さまざまな形の漆器、家のあちこちに真っ白なイナウが飾られた空間は、他にはない不思議な雰囲気を作りだすんだよね。

神々への祈りは男の役割。火の神であるアペフツチカムイへの祈りに始まり、病魔を払う祈りや祭壇の神々への祈りがおこなわれるほか、団子や酒、料理などたくさんの供物で先祖を供養するシンヌラツパや輪踊りにはみんなが参加できるので、アイヌの精神世界を体感できる良い機会になると思うよ。
アイヌの精神文化を伝える重要な儀礼、コタンノミがこの春のイチ押しということで、優子さんもみんな誘って来てくださいな。待ってまーす。①

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌの子供達へのアイヌ語教育に携わる。

■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。(財)アイヌ民族博物館副館長。先住民族アイヌの一員として、アイヌ文化伝承と普及啓発活動に努める。